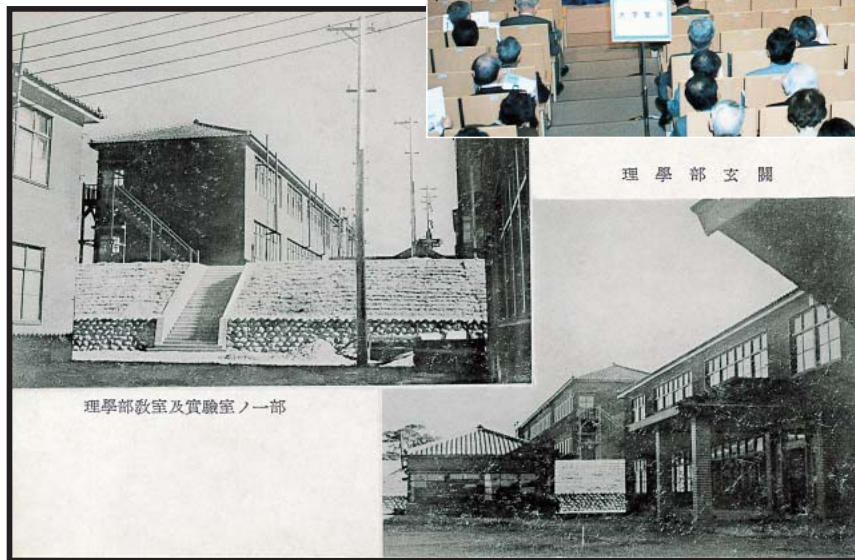




# 名大トピックス

No.108 平成14年5月31日発行 名古屋大学総務部企画広報室 編集 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Te(052)789-2016  
ホームページ URL <http://www.nagoya-u.ac.jp>

## 理学部が創立60周年記念式典を挙行



名古屋帝国大学開学記念絵はがき 理学部

### CONTENTS

平成14年度における教育研究施設の充実.....	2	農学国際教育協力研究センターが学術交流協定を締結.....	11
大幸地区に大学院修士課程が設置される.....	4	平成14年春の叙勲・褒章受章者決まる.....	11
セクシュアル・ハラスメント相談所を設置.....	5	工学研究科 毛利教授、生田教授が文部科学大臣賞を受賞...	12
理学部が創立60周年記念式典・記念講演会及び 記念祝賀会を挙行.....	6	本学で東海地区国立学校等初任職員研究を開催.....	13
理学部が同窓会創立総会・創設祝賀会を挙行.....	7		
名古屋大学全学説明会を開催.....	8		
難処理人工物研究センターがシンポジウムを開催.....	9		
博物館でコンサートと講演会が開催される.....	10		

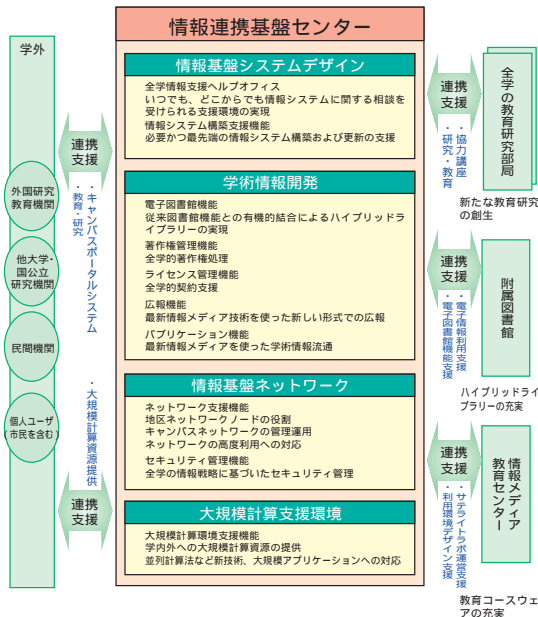


ある総合の企て 佐藤彰一..... 14  
本学関係の新聞記事掲載一覧(14年4月分)..... 16

# 平成14年度における教育研究施設の充実

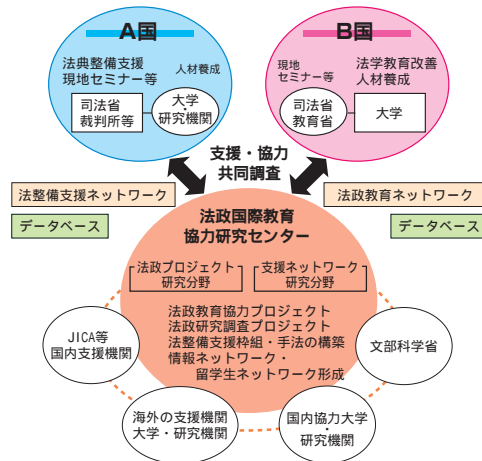
## 情報連携基盤センター (平成14年4月 設置)

学内外との連携により、先駆的な情報基盤を研究・整備・運用することによって、新しい教育研究活動のための高度な支援を行うとともに、教育研究の高度化に伴う多様なニーズや課題に的確に対応し、全学的な情報基盤を統一的に企画・推進するために設置



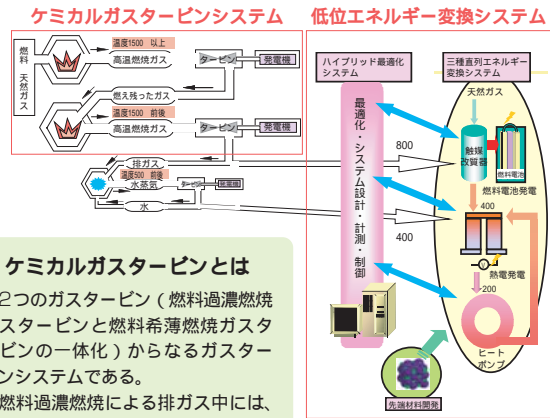
## 法政国際教育協力研究センター (平成14年4月 設置)

体制移行国・開発途上国の法整備支援、これにつながる人材養成や法学教育に関する日本の支援をコーディネートするとともに諸国の法と政治に関する調査・研究、法整備支援の手法に関する研究を進め、法整備データベースの構築と情報提供・発信・助言を行うために設置



## 高効率エネルギー変換研究センター (平成14年4月 設置)

前身の高温エネルギー変換研究センターが世界に先駆けて提案し、要素研究を進めている高効率でエネルギー変換できる新規なケミカルガスタービンの基盤技術を展開するとともにタービンからの廃熱と排ガスの低位エネルギー資源利用化技術と融合させ、現在の火力発電システムにおける約40%の発電効率から発電効率80%、総合熱効率90%を目指した高効率エネルギー変換に関する研究を行うために設置

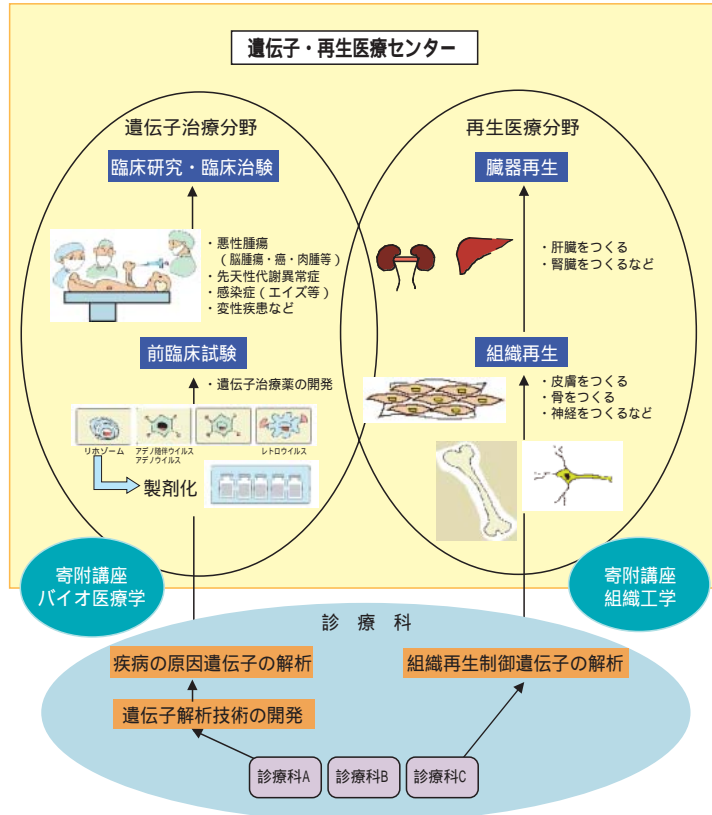


**ケミカルガスタービンとは**  
2つのガスタービン（燃料過濃燃焼ガスタービンと燃料希薄燃焼ガスタービンの一体化）からなるガスタービンシステムである。  
燃料過濃燃焼による排ガス中には、不完全燃焼による未燃の燃料や一酸化炭素および水素などの可燃成分（ケミカルエネルギー）が含まれていて、このガスにもう一度空気を加えて燃焼させることができるため、現在より発電効率を飛躍的に向上させることができる。

医学部附属病院遺伝子・再生医療センター

(平成14年4月 設置)

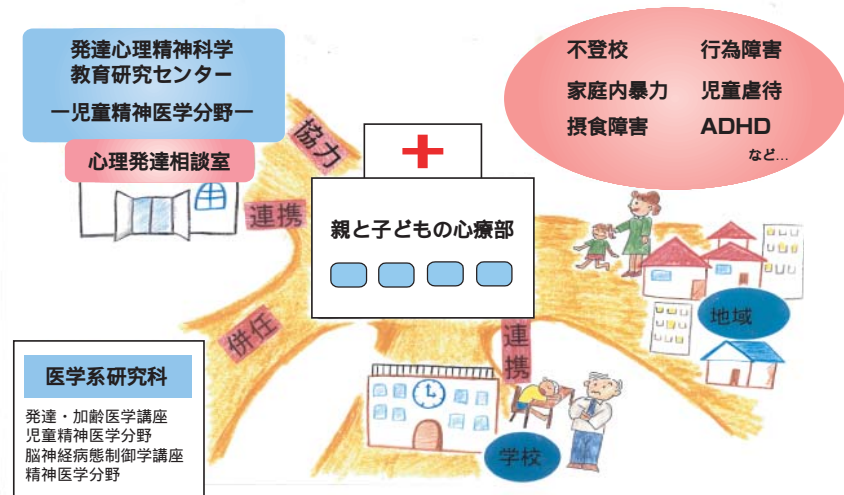
遺伝子治療と再生医療は、21世紀型先端医療の中核をなす医療であり、これまでの実績を踏まえ、この2分野を重点的に推し進め、実用化医療を目指すために設置



医学部附属病院親と子どもの心療部

(平成14年4月 設置)

乳幼児から児童青年期までの幅広いこころの問題に対応し、単に子どもの問題だけでなく、妊娠期、産褥期からの母親のこころの問題に治療的に介入し、虐待等の早期の母子関係の問題に予防的に対応するために設置





# 大幸地区に大学院修士課程が設置される

## - 4月30日に入学式を挙行 -

大学院医学系研究科では、昨年度の修士課程（医科学専攻）の設置に引き続き、4月1日付けで大幸地区に修士課程（看護学専攻、医療技術学専攻、リハビリテーション療法学専攻）が設置され、名称も医学系研究科と改められました。

同修士課程は、豊かな感性と人間性を発揮できる総合的医療の発展へとつながる保健医療従事者、研究者・教育者のバランスのよい養成を目指して設置されたもので、各専攻の入学定員は、看護学専攻が18名、医療技術学専攻が20名、リハビリテーション療法学専攻が10名となっています。

4月5日には、医学部保健学科本館の玄関前で、松尾総長、奥野総長特別補佐、伊藤副総長、佐々木副総長、小池事務局長、勝又医学系研究科長等の出席のもと、勝又医学系研究科長揮毫の「名古屋大学大学院医学系研究科」館銘板の上掲式が行われました。

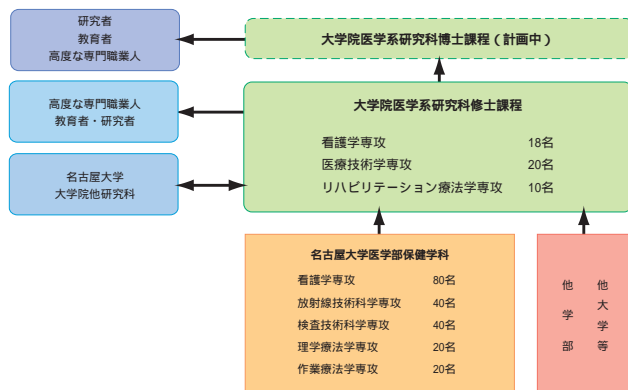
また4月30日には、看護学専攻20名、医療技術学専

攻25名及びリハビリテーション療法学専攻20名の入学者を迎え、第1回入学式が挙行されました。

式辞の中で松尾総長は、『最近では、「医の本質からの問題点」として、「人間性の医学と医療」が大きな問題として取り上げられている、と聞き、大変心強く感じたが、この問題点の背景には含蓄の深い、いくつもの大変難しい諸問題があります。例えば「人間理解」、「生きがい」、「医の倫理」、「生と死」、「人間形成」等々であり、これらを深く理解し、かつ実践できる医師や医療支援者像をほとんどの国民が期待し、切望しているといっても過言ではありません。そのためには、他の分野に常に興味を持ち、いろいろな人たちと交流し、「人間として自分自身を磨く」ことが大切』、『自分がしてほしいことを、当たり前気持ちで他の人にできる』そういう気持ちを持ち続け、最大限の努力をされるよう、心から期待しています』と入学者を激励しました。

### 医学系研究科看護学専攻、医療技術学専攻及びリハビリテーション療法学専攻（修士課程） （平成14年4月設置）

臨床・管理・政策立案等でリーダーシップを発揮し得る保健医療従事者及び保健医療分野における学術研究を推進する優れた研究者・教育者の養成を図るために設置





# セクシュアル・ハラスメント相談所を開設

平成14年4月から事務局2号館3階の旧記者室を改修しセクシュアル・ハラスメント相談所を設けて専任の相談員を配置したことに伴い、4月25日に松尾総長、佐藤相談所長、小池事務局長はじめ関係者の出席のもと、開所式が行われました。

これは、従来、各部局教官・事務官22名の相談員が職務の傍ら相談に応じていたものを、カウンセラーの経験を有する者や臨床心理士の資格を有する専門家2名の相談員を配置することにより、相談体制の一層の充実を図ったものです。

開所式では、松尾総長から、平成13年10月に制定した「名古屋大学ハラスメント防止基本宣言」の趣旨に

基づきその対策の一環として相談所を設置したこと並びに今後より一層のセクハラ防止対策に努めたい旨のあいさつがありました。

また、開所式の後、伊藤副総長及び佐藤所長が相談所を設置するに至った経緯について記者会見を行い、活発な質疑応答がなされました。

本学では、この防止基本宣言に基づき、平成12年2月に定めた従前の「セクシュアル・ハラスメントの防止・対策等に関するガイドライン及び同規程」を見直し、新たに本年4月に「セクシュアル・ハラスメントの防止対策ガイドライン及び同規程」を施行しました。また、セクシュアル・ハラスメント相談所のリーフレットと相談所への連絡先を記したカードを本学全職員・学生に配布するとともに、学内各所にポスターを掲示するなど、セクシャル・ハラスメント防止に向けて努力しています。



**Nagoya University**  
Sexual harassment  
Help desk

**名古屋大学**  
セクシュアル・ハラスメント相談所  
〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町  
tel 052-789-5806 (9:30~16:00) fax 052-789-5968  
sh-help@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

このカードには、セクシュアル・ハラスメント相談所の連絡先と連絡方法が記入されています。定期券入れや財布などに常に携帯し、何かあった場合には、すぐにカードの連絡先までご連絡ください。

学校内で、セクシュアル・ハラスメントを受けたと思ったら、とにかくすぐに電話してください。あるいは周囲の方からのご連絡でも構いません。

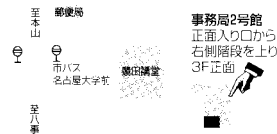
- ※連絡時間外であっても、留守番電話に伝言を残してください。
- ※EメールやFAXでの連絡でもかまいません。

留守番電話・FAX・メールでの連絡の場合は、以下の項目をご連絡ください。

- 連絡先 (Eメールや携帯電話など)
- 連絡方法 (連絡が可能な時間帯など)
- お名前 (匿名でも構いません)
- 簡単な相談内容

必ずこちらから連絡いたします。

来所での相談を希望する際には、電話で予約を取っていただくが確実です。



※情報は厳重な管理を行いますので、あなたのお名前や相談内容は外部には絶対に流出しません。



配布されたカード



## 理学部が創立60周年記念式典・ 記念講演会及び記念祝賀会を挙行

理学部は、4月20日、豊田講堂において「理学部創立60周年記念式典・記念講演会」を挙行了しました。

記念式典には、大学関係者、卒業生及びOB職員等約550名が出席し、山下 理学研究科長による式辞、松尾総長のあいさつに続き、工藤智規 文部科学省高等教育局長、佐藤禎一 日本学術振興会理事長、久保泉 広島大学理学部長、益川敏英 京都大学基礎物理学研究所長及び諏訪兼位 日本福祉大学長から祝辞があり、昭和17年に理工学部から理学部に分離し今日に至るまでの60年間における理学部の教育活動、研究活動の変遷を懐かしむとともに、未来に向けての益々の発展に期待が寄せられました。

次いで、2001年ノーベル化学賞を受賞された野依 理学研究科教授による「研究は瑞々しく、単純明快に」をテーマに記念講演が行われました。この記念講演会は一般にも開放して行われたもので、約1,500名の聴衆が熱心に聞き入りました。

講演会の終了後、シンポジオンホールに会場を移して記念祝賀会が行われました。祝賀会には、大学関係

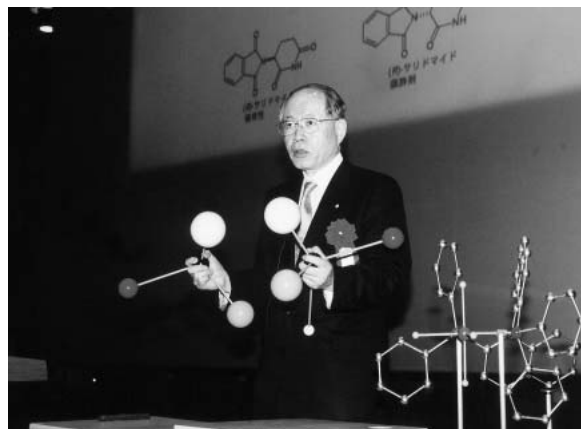


佐藤 日本学術振興会理事長 工藤 文部科学省高等教育局長

者や卒業生を中心に300余名が出席し、山下 理学研究科長及び伊藤 副総長のあいさつ、樋口敬二 名古屋市科学館長及び大澤文夫 名誉教授の祝辞の後、山内脩 関西大学教授の音頭で乾杯を行い、終始盛会のうちに終了しました。



松尾総長によるあいさつ



模型を使って講演中の野依教授



## 理学部が同窓会設立総会・創設祝賀会を挙行

理学部・理学研究科は、4月20日、同日開催の創立60周年記念行事に先立ち、シンポジオンホールで「理学部・理学系研究科同窓会設置総会」を挙行了しました。

設立総会には卒業生やOB職員等200余名が出席し、松浦 同窓会設立準備委員長（理学研究科教授）より同窓会設立への経過報告、同窓会会則の説明の後、同窓会役員を選出しました。続いて山下 理学研究科長に

よるあいさつ、伊藤 副総長、同窓生代表として飛田武幸 元理学部長及び西寺雅也 多治見市長からの祝辞がありました。

その後、会場をシンポジオン二階のユニバーサルクラブに移して創設祝賀会が開催され、年代を超えた新旧の交流が図られました。



同窓会設立経過等を報告する松浦準備委員長



創設祝賀会で歓談中の同窓会員



## 名古屋大学全学説明会を開催

5月2日、豊田講堂において名古屋大学全学説明会を実施し、新任教官112名を含む約460名が参加しました。この説明会は、新任教官説明会を兼ねて全職員を対象に行われたもので、大学の概要及び当面の諸課題等を説明し、大学の現状等について理解を深めてもらうことを目的として実施されました。

説明会では、松尾総長から「大学の現状と課題について」と題して国立大学をめぐる法人化問題に対する

対応、本学をめぐる最近の動きについての説明があった後、参加者と質疑応答が行われました。引き続き、伊藤副総長の「本学における教育体制」、関総務部長の「サービス制度」及び増田総長補佐の「大学におけるセクシュアル・ハラスメント防止・対策」についての説明が行われ、大学職員にとって大変有意義な説明会となりました。







## 難処理人工物研究センターが シンポジウムを開催

難処理人工物研究センターは、4月23日、24日に、シンポジウムにおいて「廃棄物による環境リスクと循環型社会の設計」をテーマに、国内シンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは、地球環境や人体に有害な廃棄物による環境リスクの評価と、これら難処理人工物の無害化・再資源化処理による循環型社会の設計指針について10名の講師による講演と討論が行われ、本学の教官・学生のほか東海地域の企業、研究機関からの研究者150余名が参加しました。

第1日目は、浅井センター長によるあいさつに続き、西山孝 京都大学教授による「技術文明の進展と資源・エネルギー需要」と題する講演がありました。午後からは、有害化学物質のリスクアセスメントとリスク管理に関する宮本純之氏と中杉修身氏による貴重な講演が行われた後、産業界のリサイクル活動について、鹿

島建設㈱の塚田高明氏から「建設廃棄物による環境リスクとリサイクル」の講演が、トヨタ自動車㈱の児玉宅郎氏からは「自動車産業における資源リサイクル活動」の講演が行われました。

第2日目は、循環型社会形成のための政策的、経済的、法的枠組みづくりに関して、柳下 環境学研究科教授、小川 経済学研究科助教授、また恒川隆生 同センター客員教授による講演がありました。午後は循環型社会の構築を目指して、LCAによる環境影響評価手法について（独）産業技術総合研究所の稲葉敦氏が、また同センターの共同研究プロジェクトとして、レスキュー・ナンバー評価法の汚染地盤処理技術への適用について片山 同センター教授から紹介がありました。

循環型社会の構築に向けた適正な廃棄物処理は、文理の領域を越えた学際分野であり、会場では活発な質疑応答が交わされ、好評のうちに会議は終了しました。



建設廃棄物のリサイクルに関する講演



化学物質のリスク評価をめぐる質疑応答



## 博物館でコンサートと講演会が開催される

博物館は、第4回特別展『名帝大けふ誕生』を、大学史資料室と共催で4月8日から8月31日まで開催しており、4月19日には、特別展に関連した第1回目の講演会が博物館講義室で行われました。

講演会に先立ち、ソプラノ歌手の長坂佐代子さんとチェンバロ奏者の鈴木美香さんによる第4回博物館コンサート（NUMCo）が開催されました。それぞれの曲について長坂さんの軽妙で分かりやすい解説があり、親しみのあるコンサートとなりました。長坂さんがチェンバロ伴奏付きで「いとしい絆よ」をはじめ4曲の独唱を、そして鈴木さんが「つむじ風」ほか2曲のチェンバロ演奏を行いました。コンサートがちょうどお昼休みの時間帯に行われたこともあって、会場は伊藤副総長をはじめとする約150名の聴衆で超満員となりました。

講演会では、加藤 教育発達科学研究科教授（大学史資料室長）により、「名古屋帝国大学誕生のころ」をテーマに講演が行われました。加藤教授は、昭和14年に最後の帝国大学が名古屋に誕生するまでの経緯や創設に尽力した渋澤元治初代名古屋大学総長の活躍とキャンパスプランなどについて、大学史資料室に保管されている多数の貴重な資料をもとに詳しい紹介を行いました。さらに、戦時下における帝大創設期の厳しい状況と独立行政法人化に揺れる今日の状況を重ね合わせ、大学人の果たすべき役割と歴史資料の重要性を強調し、講演を締めくくりました。

なお、博物館では、今回の特別展関連の講演会を、5月10日、6月7日、6月21日にも開催を予定しています。



第4回コンサート



特別講演会



## 農学国際教育研究センターが 学術交流協定を締結

3月19日、竹谷 農学国際教育協力研究センター長がアフリカ人造り拠点研究所（AICAD）を訪問し、同センターとAICAD間の学術交流協定を締結しました。署名式には、ミチエカ所長（ジョモケニアッタ農工大学（ケニア）学長）のほか、ケニアのAICAD加盟4大学の代表や、ケニア教育省、日本大使館、JICA事務所等から18名が参列し、関係者が見守る中、竹谷センター長とミチエカ所長が協定書に署名を行いました。

この交流協定は、東アフリカ3ヵ国8国立大学（ケニアのナイロビ大学、ケニアッタ大学、ジョモケニアッタ大学、エジャートン大学、モイ大学、タンザニアのダルエスサラーム大学、ソコイネ農業大学及びウガンダのマケレレ大学）のコンソーシアム組織AICADのミチエカ所長が昨年10月、本学を訪問したことをきっかけに検討が始められたもので、研究交流をはじめ7項目の交流活動について締結が行われました。

AICADは、8大学学長、3ヵ国の教育相および国際協力事業団（JICA）で構成される運営評議会が決定権を持ち、3ヵ国の政府が一定の財政負担もし、JICAが支援協力する形の、いわば「21世紀型のODA」として注目されているプロジェクトで、この2年間、JICAの支援を受けて組織の確立とパイロット事業推進を取り組んできました。

今回締結された協定をベースに、両組織を中心とする学術交流が新しいODAの発展に対して大きな役割を果たすことが期待されます。



## 平成14年春の叙勲、褒章受章者決まる - 本学関係者10名が喜びの受章 -

平成14年春の叙勲及び褒章の受章者が発表され、本学関係者では次の方々を受章されました。

### 《叙勲》

#### 勲二等瑞宝章

井関弘太郎 名誉教授（文学部）

#### 勲二等瑞宝章

北澤 正啓 名誉教授（法学部）

#### 勲三等旭日中綬章

岩井 章 名誉教授（空電研究所）

#### 勲三等旭日中綬章

石崎 宏矩 名誉教授（理学部）

#### 勲三等瑞宝章

仲井 猛敏 名誉教授（空電研究所）

#### 勲三等瑞宝章

景山 直樹 名誉教授（医学部）

#### 勲三等瑞宝章

佳山 良正 名誉教授（農学部附属農場）

#### 勲三等瑞宝章

岩村 達一 名誉教授（農学部）

#### 勲六等宝冠章

伊藤 紀子 元東山地区電話交換室長（施設部）

### 《褒章》

#### 紫綬褒章

岡本 佳男 大学院工学研究科教授



## 工学研究科 毛利教授、生田教授が 文部科学大臣賞を受賞

工学研究科の毛利佳年雄教授（電気工学専攻）と生田幸士教授（マイクロシステム工学専攻）は、平成14年度文部科学大臣賞 研究功績者表彰を受賞し、4月17日に虎ノ門パストラルで開催された表彰式において、遠山文部科学大臣から賞状と表彰メダルが授与されました。

同賞は、近年出された成果の中で実際に利活用され国民生活及び社会・経済に優れた効果をもたらしている、あるいはもたらすことが予測できる顕著な成果を挙げた優れた研究者を対象に表彰し、受賞者のみならず研究者の研究意欲向上及び科学技術の振興に資することを目的としています。

今回の受賞理由は、毛利教授については、高感度マイクロ磁気センサの新原理の発見と開発に関する実績が評価されたものです。同教授は、高密度実装 MI センサの開発に成功し、多数の国際会議で招待講演を行うとともに多くの分野での計測制御システムの智能化・高度化を一挙に進展させ、これを機に愛知製鋼（産）、名古屋大学（学）、科学技術振興事業団（官）、3者連携による MI センサ応用システムの研究開発会社「ア

イチ・マイクロ・インテリジェント㈱」が平成12年12月に設立されました。平成13年4月には、同教授が取締役就任するなど、工業的・社会的に多大な貢献を果たしたことが高く評価されたものです。

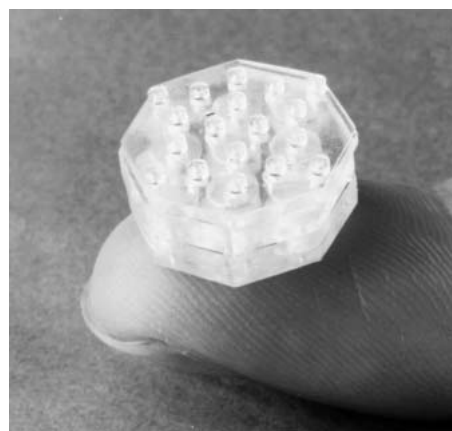
生田教授については、液状の光硬化樹脂に紫外線ビームを照射し、任意の立体構造を造る光造形法の原理に着目し、平成4年に世界初の「マイクロ光造形法」の開発に成功しました。その後、種々のマイクロ光造形法を開発し、3次元のマイクロマシンに関する研究開発を世界的に活発化させました。さらに、これらの技術を用いた「化学 IC チップ」を提案し開発することにも成功し、微小な化学反応系を内蔵し、複数を結合させて合成や分析を行えるだけでなく、生きた細胞を用いなくて DNA から蛋白を合成することも可能とし、個人の遺伝子に適した薬を作るテーラーメイド製薬の基幹デバイスとなることを実証しました。これらの成果は、独創的な3次元マイクロマシンとバイオ医療デバイスの世界を開拓し、医療と先端科学を通じて広く人類に貢献することが期待され、国際的にも大いに注目を集めていることが高く評価されたものです。



（左から）生田教授と毛利教授



MI センサ



化学 IC チップ



## 本学で東海地区国立学校等 初任職員研修を開催

4月23日から26日までの4日間、「平成14年度東海地区国立学校等初任職員研修」が、本学及び東海地区国立大学共同中津川研修センターにおいて実施されました。

この研修は、東海4県の大学、高等専門学校、大学共同利用機関等に新たに採用された一般職員に対し、国家公務員の使命と心構えを自覚させるとともに、必要な業務遂行上の基礎知識、能力及び態度等を養成することを目的として平成4年度から実施されているものです。

今年度は、12機関から56名（男性35名、女性21名）が参加し、小池事務局長のあいさつ、関総務部長による「大学行政の諸課題」、長谷川経理部長による「国

の予算と会計制度」、金井 教育発達科学研究科助教授による「職場の人間関係」等の講義の他、松本 国際言語文化研究科教授による「大学における男女共同参画とは」の講義及び演習、藤田敬一 元岐阜大学教授による「仕事と人権感覚について」、(株)NTTテレメイト教育セミナー部講師による接客態度、名刺交換、電話対応などの「ビジネスマナーの心構えと基礎知識」等広範かつ内容のある講義に熱心に耳を傾けていました。

3日目の講義終了後は、東海地区国立大学共同中津川研修センターに会場を移し、白石人事課長による「公務員制度」の講義に続いて体育実技「ソフトバレーボール」では汗を流すなど、他機関との親交を深めると共に公務員としての自覚を深めた研修となりました。



先輩の話に耳を傾ける研修生



名刺交換の実習をする研修生



## ある総合の企て

佐藤 彰一

物事には潮どきがある。学問研究とて例外ではない。研究者その人の研究の経歴の上での潮、それから学界全体の潮流。この二つが重なる場合もある。ちょうど私が手懸けている西欧世界での古代から中世への転換の問題が、まさにそうした状態にある。転換の具体的姿は、過去一世代の間に成し遂げられた考古学的発掘の驚くべき豊かな成果や、一段と精緻になった文献史料の分析などにより、私たちの師にあたる世代の人々が認識していたものとは一変しているのである。EUの科学部門と云える「欧州科学財団」の研究プロジェクト「ローマ世界の変容」は、ヨーロッパ共同体加盟諸国の第一線の中世史家を動員しての、新たな知見による総合の企ての学界版と云えるであろう。

私自身は「ローマ世界変容論」を大枠として、これをさらにミクロナな枠組で分析した作業として『修道院と農民』を数年前に著わし、続いてマクロナな制度分析を中心に据えた『ポスト・ローマ期フランク史の研究』を二年まえに出版した。そしてこの時代の空間的ファクターである地域的多様性を問題とした論集『フラン

ス中世初期地域史の研究(仮題)』の原稿を、それに続く研究書として刊行すべく出版社の手に委ね終えた。じつは個別研究を基礎にしての、私なりの転換期の全体像を描き出すための潮は満ちてきたとの思いは、数年まえから私のなかに沈澱していたが、昨年前半にコレージュ・ド・フランスや社会科学高等研究院などフランスの幾つかの研究機関から招聘をうけ、講義や講演の日々を重ねていた間に、自分のなかで明確な決意に変わったと云ってよい。講演に出席してくれた多くの中世史家が、自分たちとは全く異なる知的、文化的、宗教的環境のなかで生まれ、育った極東の歴史家が、この転換期の全体像をどのように提示してくれるか、本音で期待しているのが感じられたからである。「メロヴィング国家論」をフランス語で300頁ほどの著作として刊行するというのが、決意の内容であり、パリで出版社を見つけるのは、これまでの経緯からしてさほどの困難はなさそうである。はじめは英語での執筆も考えたが、言語の面での好みと、学問上の恩義からフランス語を選択することにしたのだった。



1997年刊

2000年刊



コレージュ・ド・フランス講演記念メダル 2002年6月

古代から中世への転換の要をなすメロヴィング期（6～8世紀）の国家体制の研究は、著しく停滞している。同時代史料が不足しているという客観的条件もさることながら、それ以上にその名に値する「国家」というものが、栄耀栄華を極めた当時の超大国ローマ帝国が終焉した後の、ゲルマンの蛮風吹き荒ぶ西欧の地に存在したことへの一般的な懐疑の念が、専門家の間にも牢固としてはびこっていたのがそもそも大きな要因であった。その際考えられた「国家」の概念は、もとより近代国家をモデルとしたそれである。民族学、人類学の領域では、未開とされる社会の政治組織の構造と機能を研究し、これを「国家」の名で呼ぶことは珍しくはないのは周知のことだが、ヨーロッパ史研究の分野では、発展史観の影響のもとに中世イコール封建制社会とみなされ、アンチノミーの関係に立つ本質的に分権的な封建制原理と中央集権的国家原理とは相容れないという見方が、程度の違いはあるものの洋の東西を問わず一般的であった。しかし社会的関係を構成し、維持する必須の紐帯としての封建的結びつきとされたものが、実は政治的な序列関係構築の手立てでしかなく、この時代の社会構成の本質的要素ではないという見方が勢いを得ている。私は研究者としての出発した最初から、近代主義的な国家観を中世研究に適

用することに疑問を懐きながら研究を進めて来た。そのことは『ポスト・ローマ期』を読んでもらえれば理解してもらえるはずである。

肝心の執筆は昨年11月から開始したが、科研費その他のプロジェクトもあって、今のところ全体の2、3割ほどしか進んでいない。研究のコンセプトとして考えているのは、歴史学で19世紀から幅をきかせている機械論的・要素論的発想を棄てて、ホーリズム（全体論）の発想に立って「メロヴィング国家」の構造を再構成することである。もっと具体的に言えばこの国家に自己維持（ホメオスタシス）を250年間にわたって可能ならしめた、固有の「分節化」の様式を解明すること、これが眼目である。この「国家」を仮に折紙で作った鶴にたとえるなら、折り線がどこを走っているかは、折り鶴を開いてみなければわからない。ありきたりの制度や機構がはたして体節を構成しているかどうか、アプリアには前提できないのである。予備的な探索と、仮説の設定、史料による検証という手続きで「折り線」を発見して行く粘りつよい作業が必要だ。この秋10日間ほどプリンストン大学に招かれこのテーマで講演することになっているが、合衆国の中世史家が懐いているメロヴィング国家像を一新する恰好の機会と考えている。

## プロフィール

さとう しょういち

昭和20年山形県生まれ。昭和51年早稲田大学大学院文学研究科修了。日本学術振興会奨励研究員を経て、昭和54年愛知大学法経学部助教授。昭和62年名古屋大学文学部助教授。平成3年同教授。平成14年日本学士院賞受賞。



INFORMATION

本学関係の新聞記事掲載一覧（14年4月分）

	記事	月日	新聞等名
1	明日の人に：学びのワンダー知ろう 多元数理科学研究科 浪川幸彦教授	4.1(月)	読売(朝刊)
2	科学をよむ：卵子売買の背後にあるもの 理学研究科・池内 了教授	4.2(火)	朝日(夕刊)
3	4日に野依教授を招いて「未来のノーベル賞アイデアコンテスト」 名古屋で表彰式	4.3(水)	中日(朝刊)
4	外部識者が学長に答申「運営は学生らの視点で」	4.3(水)	読売(朝刊)
5	4日～31日まで博物館で「名帝大 けふ誕生 - 初代総長 渋沢元治とその時代」開催	4.3(水)	読売(朝刊)
6	5日に同大図書館東側のグリーン ベルトで「名古屋大学下宿品リ ユース市」開催	4.3(水)	中日(朝刊)
7	永井科学技術財団の学術賞に工学 研究科・藤原康文助教授選ばれる	4.4(木)	中日(朝刊)
8	野依良治教授のオンリーワンに生 きて - 1 - 「競争」より「独創」 目指せ	4.4(木)	読売(朝刊)
9	野依教授「未来のノーベル賞」表 彰式で小中学生を激励	4.4(木)	日経(夕刊) 中日(朝刊)
10	理学研究科・町田教授ら植物細胞 の分裂時の仕組み解明	4.5(金)	読売(朝刊) 中日(朝刊)
11	平成14年度文部科学大臣賞 研究 功績 工学研究科・毛利教授、工 学研究科・生田教授選ばれる	4.5(金)	朝日(夕刊) 読売(朝刊)
12	中日春秋：「未来のノーベル賞を 目指すアイデアコンテスト」の最 優秀作品によせて	4.6(土)	中日(朝刊)
13	あすから博物館で特別展開催 創設時の機器出品	4.7(日)	中日(朝刊)
14	野依さんを目指せ 本学で入学式	4.8(月)	毎日(夕刊) 他2社
15	20日に理学部創立60周年記念・ 野依教授講演会開催	4.9(火)	中日(朝刊)
16	6国立大が法人化準備室立ち上げ 決定 東海3県 名大に事務局 12日に初会合	4.10(水)	読売(朝刊) 日経(朝刊)
17	春の園遊会招待者発表 野依教授 は欠席	4.10(水)	読売(朝刊) 中日(朝刊)
18	サロン：セカンド・オピニオン時代に 愛知県がんセンター病院・大野竜 三院長(医学部卒)	4.10(水)	読売(朝刊)

	記事	月日	新聞等名
19	シキシマ学術・文化振興財団の研究 助成に経済学研究科・小川光教 授選ばれる	4.11(木)	日刊工業
20	野依良治教授のオンリーワンに生 きて - 2 - 失敗から学ぶ「受容 体」持て	4.11(木)	読売(朝刊)
21	木曾馬への思いを歌に 富田名誉 教授作詞 曲を公募、ついに完成	4.12(金)	中日(朝刊)
22	愛知大学野球4部の名大 甲子園 出場のエース小宮 最後の1年 「昇格めざす」	4.13(土)	中日(朝刊)
23	東海の6国立大法人化へ初会合 小池事務局長を室長に13人体制で 合同準備室を設置	4.13(土)	中日(朝刊) 他3社
24	学生之新聞：学長が贈った入学式 メッセージ 大学活用し広い教養 を：松尾総長	4.16(火)	中日(朝刊)
25	27日に数学連続講座「数理ウエー ブ」開催 多元数理科学研究科・ 大沢健夫教授が講演	4.16(火)	中日(朝刊)
26	「産業技術ネットワーク」発足 会長に奥野総長特別補佐就任	4.16(火)	中日(朝刊)
27	「ゆっくり地震」これまでの研究 成果を報告するシンポジウム、地 震火山観測研究センターで開催	4.16(火)	中日(夕刊)
28	新学期の大学 図書館利用をPR 学生1人あたりの貸し出し数 名大は9.5冊	4.17(水)	読売(朝刊)
29	老年学：におい消え感じた古い 大学院老年科・井口昭久教授	4.17(水)	朝日(朝刊)
30	19日に博物館でソプラノとチェ ンバロのコンサート	4.17(水)	読売(朝刊)
31	23, 24日に国内シンポジウム 「廃棄物による環境リスクと循環 型社会の設計」開催	4.17(水)	読売(朝刊)
32	生物分子応答研究センターの松岡 信教授らのグループが高収量の稲 遺伝子を特定、その機能の解析に 成功	4.18(木)	毎日(朝刊) 他2社
33	野依良治教授のオンリーワンに生 きて - 3 - 知力の触れめざす高 等研究院	4.18(木)	読売(朝刊)
34	25日「21世紀のイスラームー現 代中東・中央アジア事情」公開講 座開催 国際開発研究科・中西久 枝教授	4.19(金)	朝日(夕刊)



	記 事	月 日	新聞等名
35	野依教授講演会に1000人出席	4 21(日)	毎日(朝刊) 中日(朝刊)
36	温暖化の影響 南極研究は大切： 水圏科学研究所・渡辺興亜教授	4 21(日)	中日(朝刊)
37	厚労省、医療機関の実施申請相次ぐ 医学部附属病院悪性グリオーマ 承認時期2000年1月	4 22(月)	日経(朝刊)
38	きらり：定年前に環境学研究科の 博士課程に入学	4 23(火)	中日(朝刊)
39	モンゴル人兄弟 名大でハッケヨイ	4 23(火)	中日(朝刊)
40	情報化時代の心理学：辻敬一郎名 誉教授	4 23(火)	中日(夕刊)
41	「飛躍」テーマ 名大祭へ準備	4 24(水)	読売(朝刊)
42	特集「医療相談」：流産後、筋腫切除 の可否 医学部・水谷栄彦教授	4 24(水)	読売(朝刊)
43	特集「医療相談」：脊椎骨粗しょう症 への対処 医学部・松山幸弘講師	4 24(水)	読売(朝刊)
44	5国立大が人文学の教材を共同作成	4 24(水)	日経(朝刊)
45	豊橋技科大の統合相手 名大が静岡大・浜医大	4 25(木)	朝日(夕刊)
46	長瀬科学技術振興財団の助成対象 を決定 生命農学研究科・岩崎雄 吾講師選ばれる	4 25(木)	日刊工業
47	野依良治教授のオンリーワンに生 きて - 4 - 「賢者」はいつでもこへ	4 25(木)	読売(朝刊)

	記 事	月 日	新聞等名
48	25日にセクハラ相談所を開設 心理士らの相談員が常駐	4 26(金)	朝日(朝刊) 他4社
49	名大生保守化ありあり 安川寿之輔名誉教授の14年間新入 生調査から判明	4 26(金)	毎日(朝刊)
50	都市創造フォーラム「語らい座」開催 奥野総長特別補佐が司会し議論を 行う	4 27(土)	毎日(朝刊)
51	5月5日に名大落語研究会「五月 寄席」開催	4 28(日)	中日(朝刊)
52	小泉政権の力 並以下象徴：法学 研究科・後房雄教授	4 29(月)	朝日(朝刊)
53	春の叙勲 本学10名が受章 紫綬褒章： 工学研究科・岡本佳男教授 勲二等 瑞宝章 井関弘太郎氏、北沢正啓氏 勲三等 旭日中綬章 石崎弘矩氏、岩井 章氏 瑞宝章 岩村達一氏、景山直樹氏、 佳山良正氏、仲井猛敏氏 勲六等宝冠章 伊藤紀子氏	4 29(月)	中日(朝刊) 他3社
54	富田名誉教授作詞 木曾馬復活 喜びの歌 発表	4 30(火)	毎日(朝刊)
55	5月10日博物館で「名帝大けふ誕 生」講演会開催	4 30(火)	中日(朝刊)

本誌に関するご意見・ご要望・記事の掲載などは企画広報室にお寄せください。

総務部 企画広報室 企画広報掛

電話：052(789)2016

FAX：052(789)2019

E-mail：kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

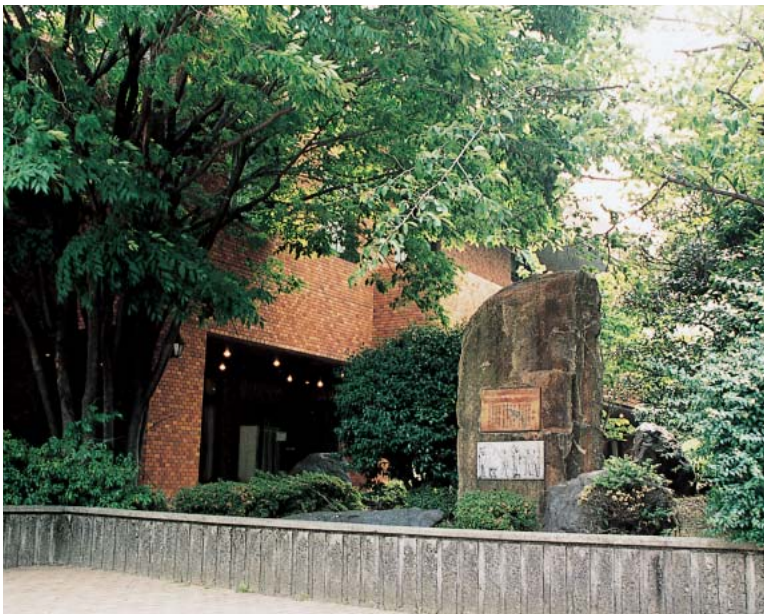
# ちよっと名大史

## 香菓園と愛知医科大学予科歌碑

戦前にあった愛知医科大学（1920～1933）は現医学部の前身ですが、この大学には4年間の学部本科とは別に、3年間の「予科」がありました。戦前は、語学や基礎教養（リベラルアーツ）を旧制高等学校・専門学校などで学んでから大学に行きましたが、この愛知医科大学予科もこれに相当します。

香菓園（かぐの このみの みその）は、愛知医科大学予科の同窓会「橘会」の設立五周年を記念して1982年に竣工、名古屋大学に寄贈されました。園の名称は歌碑の両側に植えられている橘が、非時香菓（ときじくのかぐのこのみ）と別称されていることに由来します。歌碑に記されている愛知医科大学予科の校歌「源清き」はつぎの通りです。

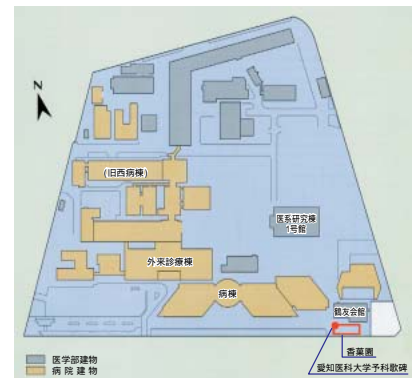
源清き堀川の  
流れ栄ある五十年  
久遠の理想仰ぎつつ  
向上の意気凝るところ  
紫白ふ東の  
鶴舞が原の黎明に  
至高の燦として  
輝く星を君見ずや  
西金城の朝風に  
橘泉神如の影清く  
韻律高く鳴り渡る  
嗚呼健男児の胸の裡



碑と庭園 全景



庭園の石碑



鶴舞地区

今回から学内外にある、名古屋大学の歴史に関する記念碑・記念物を紹介していきます。これらに関する情報をお持ちでしたら、大学史資料室（052-789-2046）へご連絡下さい。